

国語学習プリント

date: 年 月 日

学習内容:

初恋

氏名

年 組 番



初恋

島崎 藤村

まだあげ初めし前髪の
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
林檎のもとに見えしとき
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人へひ初めしはじめなり
わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

◎(一)の詩の形式は

▽ まだあげ初めし前髪とは

△ 当時(明治のころ)女子は十三~十五歳になると髪あげ(髪結い)をして、大人の女性となる成人式のよな儀式 男子でいうところのは元服にあたるもの

△ たのしき恋の盃を/君が情に酌みしかな
とは、恋の情況を何の様子にかけて表現しているか

△ おのづからなるとはどういう意味か

△ おのづ=自ず

△ 誰か踏みそめしかたみとは

△ 説いてみよう
※「かたみ」とはなにかを想像するとわかるよ
かたみ=なごり(あとにのこされたもの)

△ 係り結びをひきおこす助詞と、それを
うけ、変化した語を書きなさい。

△ ひきおこした助詞
△ 変化した語

△ 詩の構成連の内容を選べ

△ 第一連()
△ 第二連()
△ 第三連()
△ 第四連()

②どんなイメージのつながりがあるか

△ ア二人の恋が通じ合った喜び
△ イ少女に対する恋心の芽生え
△ ウ二人の愛とその深さの証明
△ エ少女との出会いとその印象